

御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続＞

御嶽山では、噴火が継続しています。昨日（28日）御嶽山の現地調査を実施しました。陸上自衛隊の協力で行った上空からの赤外線映像装置¹⁾による観測で、活発な噴煙が上がっている火口付近に高温域を観測しました。火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり300～700トンでした。

【防災上の警戒事項等】

御嶽山では、火口から4km程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

○ 活動状況

・ 噴煙など表面現象の状況（図1～2）

御嶽山では、27日11時52分頃、噴火が発生しました。本日（29日）15時現在も噴火は継続しており、噴煙の高さは火口縁上約500mで東に流れています。

昨日（28日）、中部地方整備局並びに陸上自衛隊の協力で行った上空からの観測では、剣ヶ峰山頂の南西側で北西から南東に伸びる火口列から活発な噴煙が上がっていることを観測しました。また大きな噴石が火口列から1kmの範囲に飛散しているのが確認されました。27日の噴火発生時に中部地方整備局の設置したカメラで南側斜面を、3kmを超えて火砕流が流下しましたが、南側斜面の地獄谷付近で樹木等が焦げたような痕跡は認められませんでした。赤外線映像装置¹⁾による観測で、活発な噴煙が上がっている火口付近に高温域を観測しました。

・ 火山ガスの状況

昨日（28日）山麓で行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり300～700トン（速報値）でした。同日、陸上自衛隊の協力により上空から実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり400トン（速報値）でした。御嶽山で火山ガス観測を実施したのは初めてです。

1) 赤外線映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

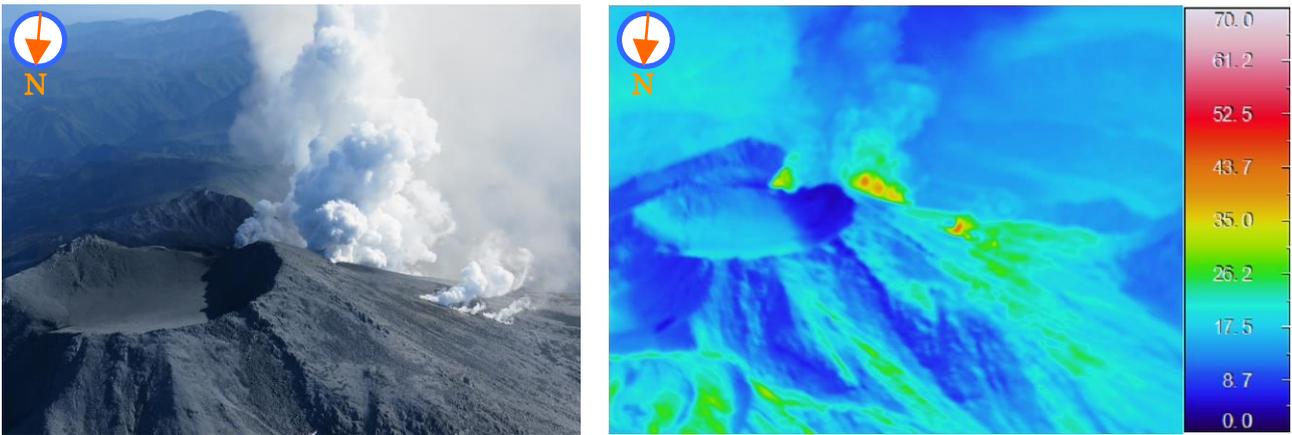


図 1 御嶽山 山頂北側の上空からの赤外熱映像装置による観測
(2014 年 9 月 28 日 15 時 30 分、陸上自衛隊の協力により海拔約 3,600m から撮影)
・ 剣ヶ峰の南西側の活発な噴煙が上がっている主に 3ヶ所の高温域を観測しました。
・ 噴火口以外では日射の影響があるものの地熱域は特に認められませんでした。



図 2 御嶽山 陸上自衛隊の協力により山頂南西側の上空から撮影(2014 年 9 月 28 日 14 時 36 分)
・ 剣ヶ峰の南西側の火口列から活発な噴煙が上がっていました。